

ムーンショット目標9

「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」

プロジェクトマネージャー 追加公募説明

令和7年4月

プログラムディレクター

熊谷 誠慈

(京都大学 人と社会の未来研究院 教授)

科学技術の向かう先に「幸せ」という目標がなければ、どれだけ科学が発展しても、人類は真に幸せを実現できないでしょう。

こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現することをムーンショット目標9は目指しています。

○人間の「こころ」は形が無く、客観的に把握しづらい対象である。

○本目標で対象とする「こころ」の安らぎや活力に特化した客観的な指標は未だ存在しておらず、それらを定量的に表現することができていない。そこで、本目標全体で「こころ」の活力や安らぎに関する（定性的な価値基準を踏まえた上での）定量的な共通指標を策定し、その後の研究開発の方向性に反映していくことが必要である。

「文部科学省研究開発構想」より抜粋

今回は、現在の目標9に不足している、

- 希望・夢・肯定的態度の向上
- 多様性受容の向上、格差の縮小
- いじめ・ひきこもり件数の減少

のいずれかの社会課題の解決に向かって、
研究開発を実施するプロジェクトマネージャー
(PM) の追加公募を行います。

その際、

- 多様性の相互寛容
- 互恵的利他行動

のいずれかの指標（詳細はp. 15を参照）を、
プロジェクトの指針として設定していただける
ことを期待します。

アジェンダ

- ・ 研究開発プログラムの概要
- ・ 取組状況
- ・ 募集・選考の方針等

個人・社会・世界における人間の幸せに、
“総合知”での貢献を目指します。

※総合知とは、自然科学に加え、人文・社会科学、文化・芸術、伝統知、身体知、世俗知など、過去・現在の人類が蓄積してきたあらゆる知を包含した、総合的な知のこと。

※人文社会科学は自然科学に対して、新たな価値発見的な視座や仮説を与える可能性があり、異なる研究分野の連携・融合は、多元的な「こころ」の研究に対して寄与すると考えるため。

2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

<ターゲット>

- 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大し、こころ豊かな状態を叶える技術を確立する。
- 2030年までに、こころと深く結びつく要素（文化・伝統・芸術等を含む。）の抽出や測定、こころの変化の機序解明等を通して、こころの安らぎや活力を増大する要素技術を創出する。加えて、それらの技術の社会実装への問題点を幅広く検討し、社会に広く受容される解決策の方向性を明らかにする。
- 2050年までに、多様性を重視しつつ、共感性・創造性を格段に高める技術を創出し、これに基づいたこころのサポートサービスを世界に広く普及させる。
- 2030年までに、人文社会科学と技術の連携等により、コミュニケーションにおいて多様性の受容や感動・感情の共有を可能にする要素技術を社会との対話を広く行いながら創出する。



目標9：

「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」

2050年

様々な背景を有する
人々へ拡大
個人・集団・社会の
ありたい姿の両立

2040年

特定の小集団～市町村
等での実証試験

2031年度

小規模実証

2026年度

試作の完了
Well-going
研究開発指標
の目標値の提示

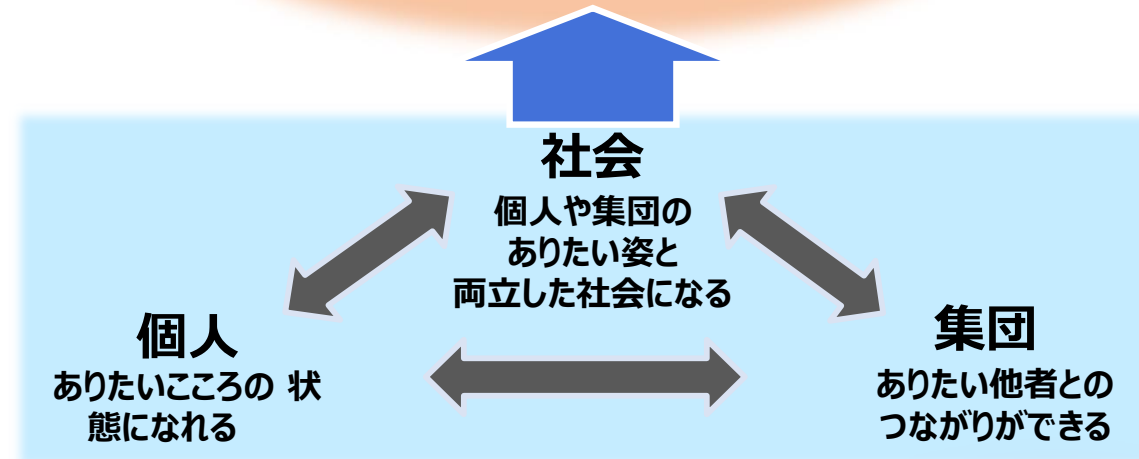
2024年度

実験室レベル
コンセプト検証

2022年度

研究開始

全ての人々が、生きがいを持って
生活できる新たな社会



自分のこころを
マネージメント
するための技術

自分の中で、
こころについて知る

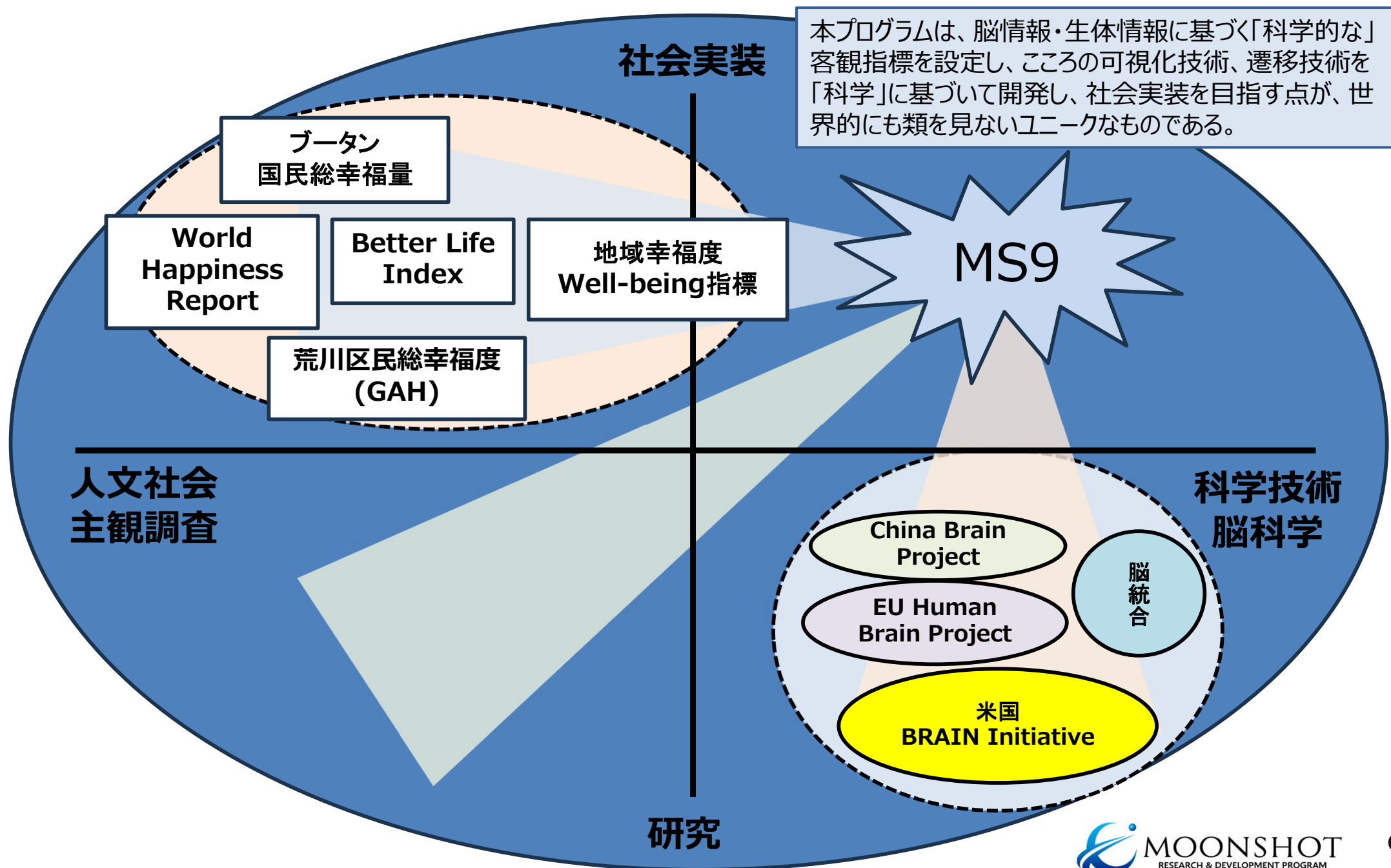
【個々のこころの状態理解】
【個々のこころの状態遷移】

社会受容基盤
【ELSI】

他者との円滑な
コミュニケーション
を支援する技術

集団・社会の中で、
こころについて知る

【集団のこころの状態理解】
【集団のこころの状態遷移】

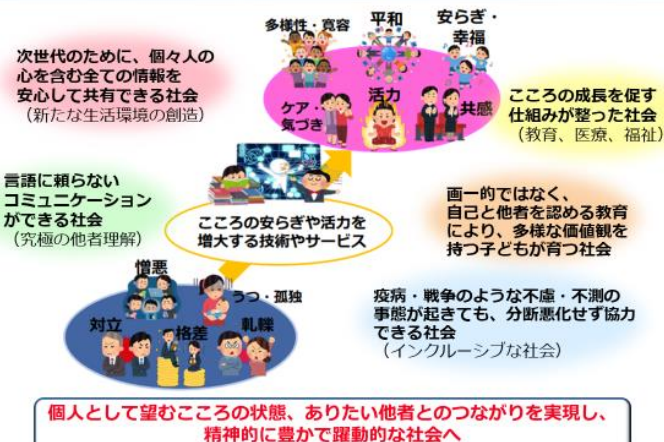


キービジョン「次世代に渡すWell-goingな社会」の設定

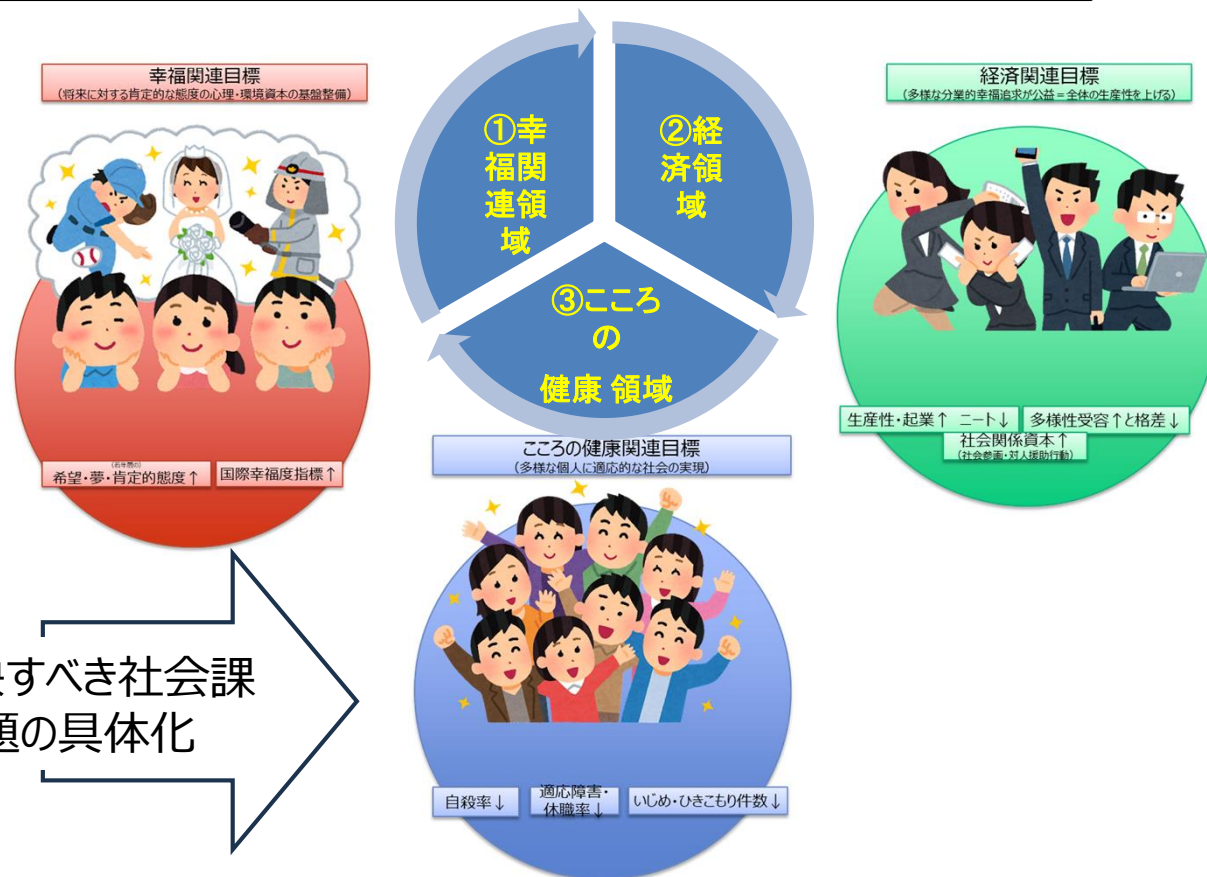
「Well-going」= 行為の遂行順調性

環境の支援や個人の心理的資源の向上によって、自分の特性を活かしながら夢や目標を追うことができ、相互に応援できる状態。

ムーンショット目標9が実現する社会



解決すべき社会課題の具体化



個人を取り巻く環境が充実し、あるいは個人の心理的資源が向上するなどして、人々が多様な特性を生かしながら夢を追うことができ、相互に（それぞれの人生を）応援できる状態。幸福状態を供与するための科学技術を作ることのみならず、このころに関する環境資源と個人資源を豊かに持って次世代がもっとやりたいことにチャレンジして幸福を追求でき、相互に支え合える社会になるよう科学技術で貢献することを目指す。

【参考】ムーンショット目標 9 ビジョン'24

「次世代に渡すWell-goingな社会」を目指す ビジョン'24の全体像の再設定

MS 9 ビジョン'24 : 「次世代に渡すWell-goingな社会」を目指して具体的に解決・改善を目指す「社会課題」

① 幸福関連領域

希望・夢・肯定的態度 ↑

国際幸福度指標 ↑

② 経済領域

生産性・起業 ↑
ニート ↓

多様性受容 ↑
格差 ↓

社会関係資本 ↑
(社会参画・対人援助行動)

③ こころの健康領域

自殺率 ↓

適応障害・
休職率 ↓

いじめ・ひきこもり件数 ↓

MS 9 の「Well-going研究開発指標」

新たな概念の測定（評価）指標の開発

① こころの活力増大に関する指標

指標1: 生きやすい環境

指標2: 心理的資本

指標3: 多様性の相互寛容

指標4: 互恵的利他行動

② こころの安らぎに関する指標

指標5: こころの安定性

指標6: レジリエンス

指標7: ストレス・ネガティブ感情

MS 9 の各PMの研究開発

今水 寛（株式会社国際電気通信基礎技術研究所 所長）

東洋の人間観と脳情報学で実現する安らぎと慈しみの境地

筒井 健一郎（東北大学 大学院生命科学研究科 教授）

多様なところを脳と身体性機能に基づいてつなぐ「自在ホンヤク機」の開発

菱本 明豊（神戸大学 大学院医学研究科 教授）

子どもや若者の虐待・抑うつ・自殺ゼロ化社会

細田 千尋（東北大学 大学院情報科学研究科 准教授）

子どもが豊かな社会関係性にささえられ自律的に夢を持てる社会の実現

松元 健二（玉川大学 脳科学研究所 教授）

脳指標の個人間比較に基づく福祉と主体性の最大化

山田 真希子（量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所 グループリーダー）

逆境の中でも前向きに生きられる社会の実現

対象とする研究開発の研究開発テーマとアプローチ

- 今回の追加公募にあたっては、ビジョン’ 24が掲げる「希望・夢・肯定的態度の向上」「多様性受容の向上、格差の縮小」「いじめ・ひきこもり件数の減少」に向けた社会課題領域を、集団・社会の側面から解決することで、こころの安らぎや活力の増大につなげていく研究開発を求めます。
- ただし、上記領域において具体的に対象とする社会課題については提案者自身が設定するものとします。
- その際、そのような課題解決に連関する「指標３：多様性の相互寛容」及び「指標４：互恵的利他行動」が重要な指標となると考えております。指標３、指標４を基にして社会課題を解決する研究開発を期待します（それ以外の指標を基にした提案も可能とします）。

☆様式１の５.および６.でチェックボックスを選択してください

※研究開発テーマの参考例（あくまでも参考でありこれに限るものではありません。）

- 若い世代の希望・夢・肯定的態度の向上を促す提案
- SNS上でユーザ間に生じる過度な同調や誹謗中傷、激しい感情的な意見対立を解決する提案
- 学校や職場等でのいじめやハラスメントを抑制する提案
- ひきこもり、学校や職場における不適応等の社会復帰支援に関わる提案
- 高齢者と子ども等の双方が幸福感を高めることができる世代間交流に関わる提案

※提案者の考える「ころ」の（社会科学を含む）科学的な定義を設定した上で、科学的エビデンスの裏付けを必須とします。

- 指標3、指標4を基にして社会課題を解決する研究開発を期待します（それ以外の指標を基にした提案も可能とします）。
- 指標とは、人間のころの特性について、（社会科学を含む）科学的な計測を行い、提示するものです。目標9ではその指標を基にして、社会の仕組みや制度を考えることにより、社会課題の解決を実現したいと考えています。
- 例えば、交通事故を無くすために、単に信号機やガードレールの数を増やすというだけでなく、人間が事故に結びつく錯覚等を起こしやすい条件を科学的な指標として計測できれば、その指標で計られる条件を改善することで本質的な解決に結びつけることができます。
- 実際の社会課題の解決に向け、指標を基にした研究開発により、科学的な信頼性、妥当性を持った大きな展開を期待することが出来ます。

目標9では、社会課題の解決に関連する指標の開発も重要になります。

☆様式1基本事項の「7. 研究開発プロジェクト概要(400字以内)」には、あなたが解決しようとする「具体的な社会課題」と、「指標の（社会科学を含む）科学的根拠(仮説でも可)」について必ず記述するようにしてください。

募集の全体方針

- ・ 諸問題が存在する実社会を背景として、提案する研究開発プロジェクトによって「希望・夢・肯定的態度の向上」「多様性受容の向上、格差の縮小」「いじめ・ひきこもり件数の減少」のいずれかが、**どのような現状からどのような状態に変化するのか、それによって実現される具体的な社会像**を明らかにしてください。
- ・ その上でそれがムーンショット目標９「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」にどのようにつながるのかのシナリオを提案してください。
- ・ シナリオの提案にあたっては、**2050年の社会を起点にして逆算し今何をすべきかを「バックキャスティングする」**考えと、**現在の社会と技術から未来を予測する「フォーキャスティングする」**考えを念頭に、PM採択時点から2027年3月までの時点、その後プログラムの継続が認められた場合を想定した2032年3月まで（目標９の研究開発プログラム10年目まで）のシナリオ・研究開発を提案してください。
- ・ 提案は、2050年の目標達成（提案者が目指す社会像）につながることで、多様かつ総合的な視点での解決すべきボトルネック課題とその中で本提案で取り組む科学的なボトルネック課題、そのボトルネックに対する取り組みが挑戦的かつ革新的であること、シナリオ（ELSIも考慮してどのように社会課題を解決するのか、社会に実装・適応していくのかに関する現時点での分析・仮説・根拠）を明確に説明してください。

応募条件

- a. ビジョン‘24に照らし、人間社会が主に倫理や宗教的な価値観として歴史的に積み上げてきた「寛容」または「利他」に関する科学的な考察やアプローチによって、社会課題を解決する提案を期待します。
- b. 目標９が目指す社会課題の解決の研究においては、提案者の考える「こころ」の（社会科学を含む）科学的な定義を設定した上で、科学的エビデンスの裏付けを必須とします。なお、脳・神経科学等の先端的な科学技術に限るものではなく、科学的エビデンスに基づいた社会科学なども含めます。
- c. 本研究期間では、2031年度を目指した社会実装に向けた概念実証（Proof of Concept）の計画策定までを行うこととし、提案においては、地方公共団体、NPO、企業など具体的な集団・社会における検証体制や協力関係の提案をもとめます。
- d. 本研究はムーンショット型研究開発事業として、上記の社会課題の解決に対して、これまでの延長線上にない大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発でありつつも、科学的な仮説に裏付けされた実現可能性を有するものであることが必須です。
- e. 提案は人間のこころを対象とした研究に限りますが動物実験を含むことは妨げません。また、精神疾患の治療法等、専ら医療のみに関係する研究は対象としません。

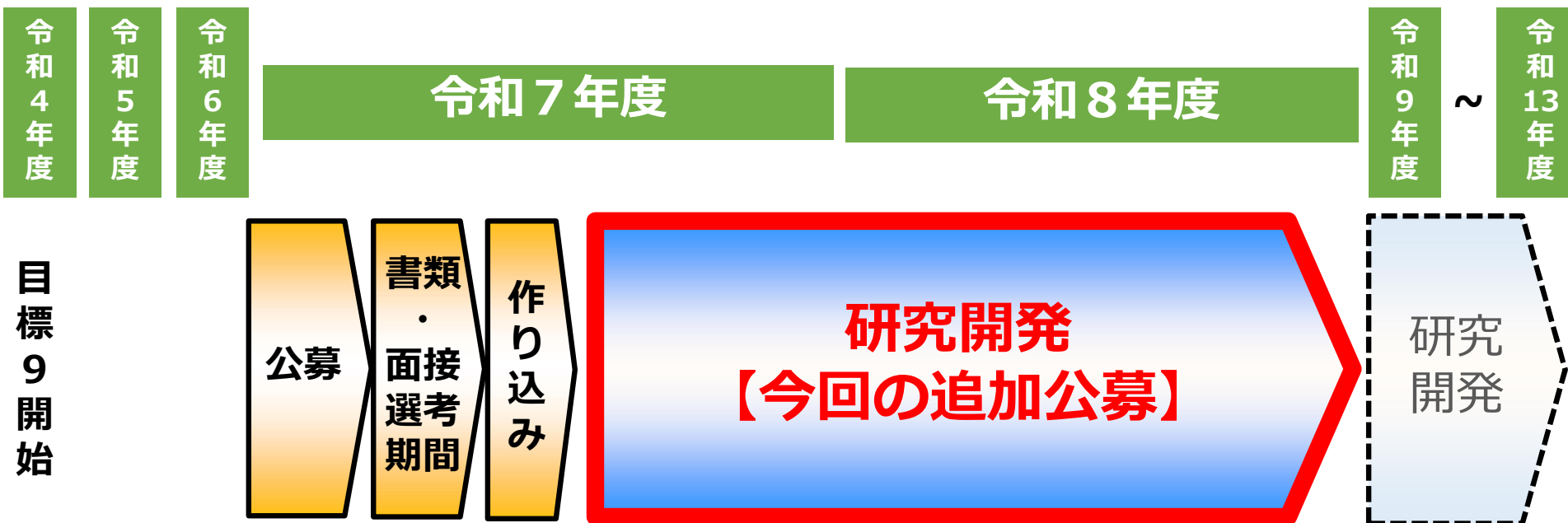
募集・選考の方針等（６）

ターゲット①（個々のこころの状態理解と状態遷移）



ターゲット②（個人間・集団のコミュニケーション等におけるこころのサポート）

- PMの他に、「（ア）こころの状態理解」、「（イ）こころの状態遷移」、「（ウ）社会実装」の３つの要素、及び ELSI対応における実施項目の担当人材を設定または想定してください。ELSI 対応の担当人材には、研究開発プロジェクトにおける ELSI の課題の実施のほか、目標横断での ELSI課題の検討・議論を行う場に参画していただきます。
- “総合知”を創出するために、人文・社会科学の研究者等と自然科学の研究者（エンジニアリングを含む）等の連携による研究体制の構築を強く推奨します。必要に応じて、サブ PMやグループリーダー等を設定し、機能的なプロジェクト構成にしてください。
- 本目標全体ではこころの安らぎや活力の増大に関して、プロジェクト横断的に使用できる「科学的な共通指標」を策定し研究開発の方向性として反映していく取り組みを行っています。この共通指標は現時点では非公開ですが、採択となったプロジェクトはその活動に参加していただきます。
- 研究開発を進めていく過程においては、波及効果として、様々な産業に貢献し得る成果の創出を期待します（ただし、本目標の社会実装は産業応用には限らず、例えば NPO 法人や地方自治体等との連携によるものも十分あり得ると想定しています）。そのため、プロジェクトには民間企業、自治体等の協力機関の賛同が得られるような積極的な活動も求めます。



3/31 6/3 9月下旬
 募集開始 受付締切 選考結果通知

プログラムについては、国の評価により令和8年度を超えて5年間継続する場合があります。
 なお、その場合においてプロジェクトの継続の有無については評価を実施し、その結果により判断されます。

詳しくは公募要領本紙
 「3.5 PDによるPMに対する進捗管理、評価等」
 をご参照ください。

	概略
プロジェクトが 目指す社会課題	☐ 希望・夢・肯定的態度の向上、 ☐ 多様性受容の向上、格差の縮小、 ☐ いじめ・ひきこもり件数の減少、 のいずれか
プロジェクトが 指針とする指標	☐ 多様性の相互寛容 ☐ 互恵的利他行動 ☐ その他、 のいずれか
実施期間	令和９年３月３１日まで
研究開発費総額	間接経費を含め上限を２億円 （令和９年３月末までの総額） ※ただし目安額より大幅に下回る提案も可
その他	●採択後のプロジェクト作り込みの際に、PDの判断により予算計画を含め研究計画の大幅な修正を求める場合があります。 ●目標９としては、実環境での技術実証に結びつけていくことを重視しています。したがって、提案する研究開発プロジェクトが独自に設定するマイルストーンに加え、以下に示す目標９全体の2026年度末マイルストーンの達成に貢献することを必須とします。 「限定的な実環境で、こころの安らぎや活力を増進させる要素技術の検証が始まる。」

選考は、主に以下の観点に基づき総合的に実施します。

- **目的・趣旨**：事業等の趣旨に合致し、事業等が目指す成果の創出が期待されること。
- **独創性・優位性**：国内外の動向等を踏まえ、提案内容が独創性・優位性を有していること。
- **目標・計画**：実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画が具体的かつ適切であること。
- **実施体制**：提案内容の遂行に最適な実施体制を構築していること。
- **遂行能力**：提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること。

なお、研究公正等の重要性に鑑み、研究の透明性・公正性の確保、研究成果の適切な取扱い、技術情報の管理等についても考慮します。